

ワーカーズの
仲間紹介
vol.7

子育てサポートワーカーズ

グリーンコープでは、組合員がワーカーズ・コレクティブ（以下、ワーカーズ）をつくり、地域福祉や生協業務の担い手となって活躍しています。
今号では、地域の子育て支援に取り組む子育てサポートワーカーズを紹介いたします。



それぞれの 家庭に寄り添い 子育て支援を行います

グリーンコープは、子どもと親、周りの大人が「共に育つ」地域社会を目指しています。そのために、家庭・地域・行政と連携を取りながら「子ども・子育て支援」に取り組んでいます。

親は子育てをする中で、子どもの成長と共に親になっていきます。その過程に、周りの人や子育てを経験した人からのサポートがあれば、とても心強いです。しかし、核家族が進み相談する人もなく、あふれる育児情報に振り回されるなど、子育て家庭の抱える不安や負担は、ますます大きくなっています。

グリーンコープでは、子育てはその家庭だけで背負うものではないと考え、様々な子育て支援を行っています。支援の担い手となっているのは、子育てサポートワーカーズ。一緒に子育てをする存在として、子育て中の家庭に寄り添い活動しています。

3 すべての人に健康と福祉を



8 働きがいも経済成長も



子育てサポートワーカーズの事業内容

- ♥ ベビー・キッズシッター
- ♥ マザーリング（産前産後のケア）
- ♥ 家事サポート
- ♥ 親子ひろば・子育てひろば
- ♥ 集団託児
- ♥ 事業所内託児
- ♥ 行政委託事業

現在、5県（福岡、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島）の子育てサポートセンターで子育てサポートワーカーズが活躍しています。
ワーカーは、各県の子育て支援員研修を修了しています。また、グリーンコープ独自の研修で、様々な現場に対応できるスキルを身に付けています。

※県によって事業内容が異なります。詳しくは各サポートセンターにお問い合わせください。

子育てサポートセンターについてはこちら



オリジナルTシャツを着てサポート業務を行っています。左から2人目が内山睦子さん。

グリーンコープしがまる生協 理事長 谷澤 孝子

私は、明確な夢があるわけではなく、都度出会う人との関係から豊かな経験をさせてもらってきたと思います。

今から30年ほど前、滋賀に演劇鑑賞会を根付かせるため先頭に立っている事務局長がいました。彼女と一緒に活動する私にとっては充実した楽しい日々でしたが、程なく彼女は病を得て亡くなります。あとを継いで事務局長になった私ですが、彼女の夢はもう私の夢となりました。私の夢は活動を続ける中で生まれ育ちました。

グリーンコープの活動においても、夢を持つ人の姿にふれ夢が育つようになれば良いと思います。

代表（取材当時の内山睦子さんに話を聞きました）
「あなたの子育てで応援し隊！」を合言葉に多様な子育て支援を行っています

子育てサポートセンター Wataage（以下、wataage）は、「子育てサロンわたげ」として2002年にスタートしてその後2016年にワーカーズとなりました。現在では事業が広がり、佐賀県全域で30人のワーカーが活動しています。

時間や場所、内容も様々な個人や団体からの依頼は、地区ごとの管理者を中心にメンバー同士で連携を取り、急な依頼にも協力し合って対応しています。

現在のメイン事業は、ベビーシッターや家事サポートなどの訪問支援になっています。利用者の多くは、SNSなどで子育て支援の事業所を探して連絡をくれた方たちです。支援をする中で感じるのは、物理的なサポートだけでなく、心理的なサポートを求めるお母さんが少なくないということです。「手一杯でどうしていいかわからない、助けてください」と切実な思いで連絡をくれたお母さんもあります。また、初めての子育てで不安だから傍にいてほしいという依頼もありました。

助けを求めたいのに、利用料金がネックとなり諦めてしまう家庭もあるように感じます。地域全体で子育てをする社会になるには、行政の支援が不可欠です。必要なサービスがもっと利用しやすいように、利用者が負担する料金の補助など行政への働きかけをこれからも継続的に行っていきます。

お母さんやお父さんが、子育てを一人で抱え込まないで、気軽に Wataage に頼ってもらえたらうれしいです。

Wataageの事業内容

ベビー・キッズシッター

訪問による自宅での子どもの見守り・託児
保護者の用事（買い物や通院など）での外出時の託児や、仕事から帰宅するまでの見守りなど、様々な場面で利用があります。支援に入る前に利用者の要望を丁寧に聞きとり、担当するワーカーで情報を共有しながら支援を行っています。

家事サポート

小学生までの子どもがいる家庭の家事支援
料理の下ごしらえから調理、掃除等の家事支援を行い、子育て中の家庭をサポートしています。体力的にも気持的にも余裕ができて喜ばれています。



Wataage についてはこちら

集団託児

グリーンコープや自治体、企業イベント開催時の集団での託児
お子さんが不安にならないように声をかけながら、一人ひとりのやりたいことに合わせて一緒に遊んだり、子どもたち同士の交流を見守ります。

親子ひろば

親子で参加する子育てひろば
助産師によるベビーマッサージ、防災教室、親子クッキングなど様々なプログラムがあります。親子ひろばを通して地域の子育て家庭の交流が生まれています。

みんなの居場所

赤ちゃんからお年寄りまで誰でも集える居場所
グリーンコープの委託で運営している居場所「みんなのわたげ みやき」は、子どもも大人も利用でき、自由な時間を過ごす場所です。「ここに来ると誰かに会える」と開所日を楽しみにされています。夏休みなどの長期休みには、佐賀市の会場で季節のイベントも開催しています。





アースウォーカーズ 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト報告会

主催：グリーンコープ共同体
日時：2025年12月24日
参加：60人(会場・オンライン)

福島を伝え、再生可能エネルギーを学び 原発のない未来へ



被爆80年にあたる2025年は、初めて広島からも高校生一人が参加しました。



ドイツ訪問の報告をする高校生とアースウォーカーズ代表小玉直也さん(右)。

グリーンコープは、原発は「いのち・自然・くらし」を脅かすものと考え、脱原発を目指しています。また、東京電力福島第一原発事故で被災した福島の方々に支援する活動も行っています。活動を行う中で福島の子どものちの支援を行う「特定非営利活動法人アースウォーカーズ(以下、アースウォーカーズ)」と出会い、その取り組みに賛同し、活動を応援してきました。アースウォーカーズが取り組む活動のひとつ「福島・ドイツ高校生交流プロジェクト(以下、交流プロジェクト)」では、福島の高高校生が、福島第一原発事故後に原発を廃止して再生可能エネルギーに転換したドイツを訪れ、ドイツの高高校生と交流しています。

高校生からのドイツ訪問報告

ドイツの戦争の歴史について学び平和について考えるため、戦跡フィールドワークを行いました。ベルリンの壁やザクセンハウゼン強制収容所などを訪れ、戦争で犠牲になつた人々についての話を聞きました。ドイツでは、戦争による負の遺産を隠さず、自国の加害の歴史も明らかにして、広く人々に公開しています。ドイツの人々が過去の過ちを知ってそこから学ぼうとしていることは、素晴らしいと感じました。



ベルリンの壁は想像より高く驚きました。壁を乗り越えようとして殺された人の中には、子どもや女性もいたそうです。

特定非営利活動法人 アースウォーカーズ

東京電力福島第一原発事故の影響により外で自由に過ごせない子どもたちに、安心して活動してもらえるよう、年代に合わせた保養プログラムを国内外で実施しています。2013年8月から取り組む「福島・ドイツ高校生交流プロジェクト」では、福島の高高校生をドイツに派遣し、再生可能エネルギーについて学び、自らの被災体験や福島の現状を現地で伝える機会をつくっています。



自分の将来について考える機会となりました

高校3年生
加茂 舞美さん

震災後、3歳だった私は、母と兄弟と一緒に山形へ避難しました。母は一人での子育てにいつもピリピリしていて、私も甘えたいのに甘えられず、いつも母と喧嘩ばかりしていました。小学2年生の冬休みに福島に帰って来ましたが、普段は外に出られないので保養に参加していました。今回のドイツ訪問では、英語のスピーチが特に大変で、発音が難しかったです。英語が苦手でしたが、「あなたの英語わかるよ」と言ってもらえ、うれしかったです。この訪問を機に英語をもっと勉強して、いろんな人と話をして交流したいと思うようになり、将来の進路が決まりました。



ドイツの高校生の歴史から学ぶ姿勢に驚きました

高校2年生
吉田 果凜さん

震災当時は2歳でしたが、怖かったことはしっかり覚えています。放射能の影響で外に遊びに行くのが難しく、夏の暑い日でも長袖長ズボン、帽子にマスクで過ごさなければならず、辛かったです。ドイツでは、戦跡を残すことで戦争での出来事を後世に伝えていました。また、自国の過ちも隠さない教育がされていました。間違いを隠さず明らかにすることは、その国を信頼する一歩につながると思いました。また、ドイツの高校では、授業中生徒が手を挙げて積極的に発言していて、みんな勇気があるなと思いました。私もドイツの高高校生を見習って、自分の意見をみんなの前で言えるよう努力していきます。

参加者の感想(一部抜粋)

若い彼らがこうした国際交流を通して視野を広げ、経験を積み、これからの人生に役立ててもらえれば本当にうれしい。

日本とドイツの過去に学ぶ姿勢に差があることを、しっかりと体験から学んだ高校生がいて、心強く感じた。

歴史を知って前に進んでいきたいという高校生の想いは私たちの想いと一緒で、とても大切だと感じる報告会になった。

政治が市民に開かれていることを実感しました

日本の国会議事堂にあるドイツ連邦議会議事堂では、多くの市民が議会を見学していました。市民の目によって不正があつてもすぐ見つけられるなど、透明性の高い政治が行われており、市民と政治の距離がとて近いくことがわかりました。



ドイツ連邦議会議事堂の周りには高い塀や柵がなく、オープンな雰囲気でした。

再生可能エネルギーの施設を訪問しました

原発に頼らない安全でクリーンなエネルギーについても学びました。ドイツの先進的な再生可能エネルギーの施設や、環境に配慮した建築物などを見学し、政府や民間企業が真剣にCO₂排出や電気の使用を削減しようとする姿に驚きました。ドレスデン電気技術センターでは、下水の汚泥から発生するガスで再生エネをつくる施設を見学しました。



ドレスデン電気技術センターでは、下水の汚泥から発生するガスで再生エネをつくる施設を見学しました。



ベルリン中央駅は、電気を極力使わずCO₂を排出しないことを考えて造られています。天井がガラス張り日光がよく入るようになっていました。

多くの学びを得たドイツ訪問となりました

今回の訪問で、ドイツの自然環境へ配慮した取り組みや、ドイツの人々が過去の歴史から学び、今に活かそうとしていることを知ることができました。滞在時はドイツの家庭にホームステイして異文化を体験し、現地の高校で授業を受けました。ドイツ訪問を締めくくることが、英語でのスピーチで、自分の伝えたいことを英語で発表しました。スピーチはとても緊張しましたが、震災の恐ろしさや原発はいらないこと、



報告会後のディスカッション。ドイツの生徒の皆さんからたくさんの質問がありました。



ドイツの高校での報告会。英語でのスピーチが伝わるよう、毎日発音の練習をしました。

震災時の体験や平和の大切さについて英語でスピーチしました

滞在時はドイツの家庭にホームステイして異文化を体験し、現地の高校で授業を受けました。ドイツ訪問を締めくくることが、英語でのスピーチで、自分の伝えたいことを英語で発表しました。スピーチはとても緊張しましたが、震災の恐ろしさや原発はいらないこと、

平和の尊さについて伝えることができました。スピーチ後には戦争と平和、環境問題について、生徒の皆さんとディスカッションを行いました。質問や意見が積極的に出され、ドイツの高高校生が日本が過去に起こした戦争や原発事故から多くのことを学ぼうとする姿勢に圧倒されました。



地球温暖化とたたかう生産者を支え 私たちの大切な食べものを 守っていきましよう

グリーンコープの産直産地での温暖化の影響と対策

温暖化による異常気象が農業の現場を直撃しています

グリーンコープの産直産地では、土壌消毒剤や除草剤を使わず(一部は果物を除く)、化学合成農薬や化学肥料も不使用または減らして栽培されています。生産者は、よりおいしく安全な青果物を組合員に届けようとして創意工夫し、努力を続けています。

しかし、ここ数年、高温による作物の不作や品質低下、豪雨や台風による田畑や資材設備への甚大な被害など、生産者が培ってきた経験や努力が対応できない状況が続いています。

特に顕著なのは、夏場の高温による被害です。葉物類や果菜類だけでなく、最近是人参やパレイシなどの根菜類にまで影響が及ぶようになりま



猛暑の影響を受けた北海道産のパレイシと人参
昨年夏、猛暑が続き雨もほとんど降らなかったため、表面が網目状にひび割れた産直パレイシ(左)と、形がびつになった産直人参(右)

また、年間をとおして気温が高い期間が長くなっているため、虫害や獣害も顕著になっています。昨年産直米や産直りんごの産地で、本来冬は死んでしまはずのカメムシが越冬して被害が広がりました。

夏場の猛暑は、生産者の毎日の作業にも大きく

「青果の大変さー生産者の声」より

2024年夏、グリーンコープ連合会農産本部が、九州内37産地を訪問して聞き取りしたアンケートより一部を紹介します。

高温や豪雨の影響

- 夜でも気温が下がらないので、樹木が弱っている。
- ゲリラ豪雨で播種(種まき)や定植した苗などが流されてしまつた。

生育不良

- 雨が少なく気温も高いため、キャベツの玉肥りが進まない。
- 異常な暑さで、なすやピーマンの実が大きくならない。
- 人参が発芽しない。

収穫の減少

- 大根の収量が、10年前に比べて半分以下に落ちた。
- きゅうりの曲がり果が多く、収穫量が減っている。
- 暖冬と春先の雨の影響で、にんにくが平年の4割ほどしか収穫できなかった。

病虫害・獣害

- これまで経験がないほど多発した。
- 害虫の種類や発生頻度が増えた。
- 害虫の駆除や発生頻度がここ数年で大きく変わった。ダニが多く繁殖している。
- 鳥獣害が多くなり、電柵をしないと作物が作れない。



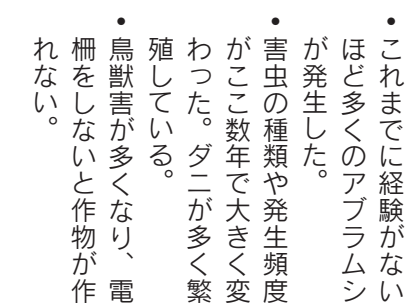
豪雨により畑が冠水し、腐敗した小さなかぼちゃ



日焼けによってしぼんでしまったブドウ



大雨で葉が傷んでしまったレタス



虫害の被害を受けたりんご

今後とも安定して青果や米を届けるために

温暖化による収穫減や品質低下を少しでも防ぐと、産直生産者はグループや生産者同士で情報交換や技術交流を行い、研究や実践を重ねています。米については、国や県などの機関で高温耐性品種の開発が活発に行われており、産直米の産地でも、地域の特性に合った高温耐性品種への転換が進んでいます。

しかし中には、栽培する作物そのものを将来変更せざるを得ないような、大きなリスクをかけた生産者もいます。グリーンコープは、生産者とともに農業を強くしていく取り組みとして、生産者だけに投資を求めるのではなく、グリーンコープも投資する「新しい工夫する」余剰対策ももつかり行っています。さらに、引き続き新規産地を開拓し、産直産地を広げることも力を入れていきます。

生産者の挑戦を、先行投資して応援

産直いちごは、夏場の高温などの影響で年々収穫量が減っています。福岡県赤村の産直生産者「鳥越ネットワーク」では、グリーンコープの要望に応じ、2023年から有機栽培でいちごの生産を始めました。

グリーンコープは、先行投資として生産にかか



産直有機いちごの栽培の様子。徐々に供給が増えています。

近い将来、地球温暖化がさらに進めば、安心・安全な青果や米の確保が一層大変な状況となることと懸念が深まっています。グリーンコープが進める「2027カーボンニュートラル」の取り組みは、私達の食べものを守るための取り組みでもあります。

暑さ対策のために、多くの手間や時間を費やすようになりました



産直トマト・ミニトマト・なすの生産者 津直 公仁さん

就農当初の10年ほど前と比べると、夏場は35℃以上の高温が当たり前のように続き夕立ちも減ったので、トマトやなすの日焼けや軟化が増えました。雨除けのビニールハウスで栽培していますが、暑さが厳しい時は、ビニールを外し、直射日光を遮るカーテンをします。天気予報を見ながら、

土づくりと水管理を徹底して対応しています



有機栽培の産直赤とんぼ米の生産者 ライスファーム菊池(熊本県) 代表 小川 勝也さん

有機栽培での米作りを約30年続けています。化学合成農薬や化学肥料は一切使いません。稲わら、もみ殻、米ぬかや油かす、栗の皮などの有機物を完熟させて土にすき込み、微生物を作ることによって、自然の力を生かした米

「中干し期間延長」でカーボンニュートラルのチャレンジ

「中干し」とは、米作りの過程において、田んぼの水を一時的に抜いて土壌を乾かす作業で、土中に酸素を供給し、稲の根の張りを良くするなど目的を行います。グリーンコープでは、中干し期間を延長することで、水田から発生するメタンの削減が期待できると考え、2025年度から、一部の生産者の田んぼで試験的に取り組んでいます。

中干しの効果

※メタンは温室効果ガスの一種で、CO₂の約28倍の温室効果を持つと言われます。土中でメタンを生成する菌は、酸素が乏しい環境で活発に活動するので、中干しを延長することで、メタンが生成されにくくなります。

▲右側の図が「中干し」を行った状態

近年、地球温暖化を主な原因とする気候変動が著しくなり、これまで経験したことがないような夏の高温や少雨、極端な大雨などの異常気象が続いています。気象の変化によって大きく影響を受けるのが、農産物の生産現場です。グリーンコープの産直青果や米の生産者も、生育不良によって収穫量が減るなどの困難に見舞われています。

生産者から届けられた声をもとにグリーンコープの産直産地の現状を伝え、今後とも安定して組合員に青果物を届けるための取り組みについて報告します。併せて、1月19日に開催した「2027カーボンニュートラル学習会」の講演要旨を紹介します。

「2027カーボンニュートラル学習会」 滝本貴弘さん講演

今回の「2027カーボンニュートラル学習会」は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)の滝本貴弘さんを講師に迎えて行いました。

グリーンコープの産直青果・米生産者やメーカーも含め、約250人が参加(オンライン含む)し、米や野菜、果物などへの温暖化の影響とその対策について学びました。



滝本 貴弘さん
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 環境研究部門 主任研究員、博士(環境学)

地球温暖化による農業への影響は、年々大きくなっており、それぞれの作物や畜産物によって、あるいは地域によっても様々な異なる現象となって表れています。

温暖化の原因を減らす緩和策として、農業分野で排出される温室効果ガスを減らすための研究開発や実装が進みつつあり、栽培する地域を移すなどの対策は、生産者にとって大きなリスクを伴います。

みもその一例です。様々な現象として表れている温暖化の影響に対して、適応策も数多く実践されています。米作りに際しては、比較的短期間で広く普及した例もあります。

情報化社会の今、消費者ニーズの高まりなどを追い風に、急激に進む温暖化に対応できるよう、様々な適応策が広く普及していくことを期待します。

※着色不良の心配がない黄緑系のブドウ

ブドウ 主な影響: 黒系ブドウの着色不良・着色遅延

見た目が黒くならないので商品価値が下がる。

巨峰

着色不良の房 正常な房

出典: 農研機構「果樹の温暖化被害(着色不良・日焼け・晩霜害)を予測するシステムを開発」

米 主な影響: 白未熟粒(中身が白濁した米粒)の発生

白未熟粒が発生すると、米の品質が下がり、生産者の収入にも影響する。

整粒 白未熟粒

整粒=被害粒、死米、未熟粒、異種穀粒および異物を除いた粒

適応策

- ①灌漑水をかけ流しにして稲や土壌の温度を下げる。
- ②白未熟粒が発生しにくい高温耐性品種に変更。

高温耐性品種の栽培面積も広がっている

- ・1.2%/年なら、2090年頃に100%に達する
- ・2%/年なら、2060年頃に100%に達する

黄緑系の栽培面積が増えている

作物ごとの温暖化の影響と適応策 (当日学習内容より抜粋)

ウンシュウミカン 主な影響: 栽培適地の変化

現在栽培している場所で栽培できなくなる可能性がある。

適応策 アボカドへの転換

さらに温暖化が進めば、今世紀半ばには、現在ウンシュウミカンの適地とされている場所の多くが、アボカドの適地となる可能性が高い。

ウンシュウミカン (c)今世紀半ば SSP2-RCP4.5

アボカド (c)今世紀半ば SSP2-RCP4.5

■ 適地 ■ より低温の地域 ■ より高温の地域

原発のない未来をつくろう (一社)グリーンコープでんき

ひがれ! 私たちの発電所

2026年1月の売電量

<p>神在太陽光発電所 75,000kWh 定格出力1,057kW (309世帯相当)</p> <p>平水太陽光発電所 105,635kWh 定格出力1,260kW (368世帯相当)</p> <p>深年太陽光発電所 170,081kWh 定格出力1,550kW (453世帯相当)</p> <p>※オンサイトPPA太陽光発電所 43,617kWh 定格出力795kW (232世帯相当)</p>	<p>若宮物流センター太陽光発電所 3,267kWh 定格出力47kW (14世帯相当)</p> <p>広島物流センター太陽光発電所 3,408kWh 定格出力47kW (14世帯相当)</p> <p>グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所 3,253kWh 定格出力54kW (16世帯相当)</p> <p>グリーン未来ソーラー 28,188kWh 定格出力376kW (110世帯相当)</p>
--	--

※グリーンコープ関連の事業所屋上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を適さずに直接その施設で利用しています。

組合員の出資で原発フリーの電気をつくります

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いを、私たちの方で実現させよう。

グリーンコープ・グリーン電力出資金

10,684人 1,089,891,000円 (2026年2月26日現在)



学校給食をオーガニック化し 農業で地域を元気にしたい

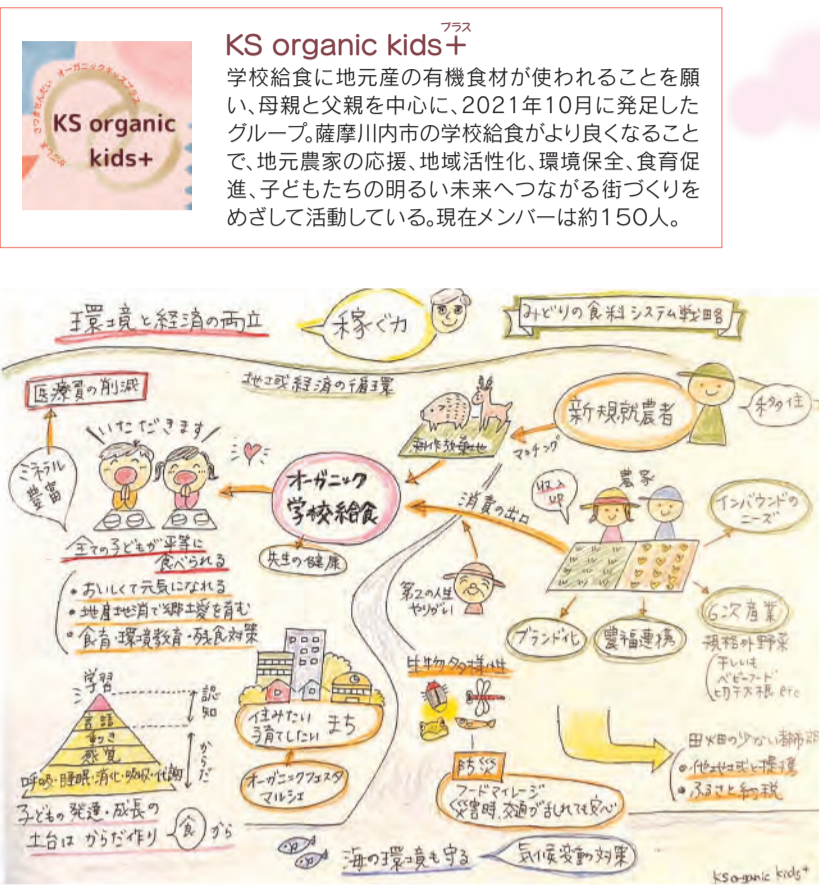


KS organic kids+ 代表
しもやじり よしこ
下八尻 祥子さん

鹿児島県薩摩川内市在住。
夫と、小1から中1の4人の子どもの
6人家族。現在は介護職のパート勤務
をしながら、KS organic kids+の活
動を行っている。グリーンコープかこ
しま生協組合員。



野菜がどのように育てられたか、おいしい食べ方
など、会話が弾む。



KS organic kids+がめざす、環境と経済の両立のイメージ。



今年の春から、家族で田んぼを借りて米作りを始めることに決めた下八尻さん。種まきから稲刈りまで、家族みんなで米作りに挑戦します。



メンバーに下八尻さんについて聞くと、「子どもたちに残したい未来の仕組みをつくらうと、常に実践する人です」。

※土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続可能な農業。

「おいしいお野菜はいかがですか」「今日はとれたての桜島大根がありますよ」と元気な声が響き、あつという間に人だかりができました。毎週水曜日、KS organic kids+のメンバーと地元

の環境保全型農業の生産者が、薩摩川内市役所のホールで新鮮な野菜や果物を販売しています。その日届いた野菜について、来店者と笑顔で会話を交わすのは、KS organic kids+代表の下八尻祥子さん。学校給食のオーガニック化を願って、仲間と共に環境保全型農業の良さを伝えていきます。

薩摩川内市の小学校の給食は、すべてセンター方式で作られています。下八尻さんは「7000食を作る大きなセンターでは、効率が優先されて加工品が使われることや、栄養面、残食の問題なども気になります」。

また、下八尻さんが以前小学校に勤務していた時、先生たちの多くが忙しくて疲れていると感じたことがありました。栄養成分を豊富に含んだオーガニック給食を、先生たちにも食べてほしいと考えました。

下八尻さんは、給食のオーガニック化をめざし、保育園の先生や保護者に、「一緒に活動

しませんか」と声をかけることから始めました。初めは仲間が集まるか不安もありましたが、賛同してくる人が思った以上に集まりました。こうしてつくった

グループが、KS organic kids+です。活動を続ける中でも、どんどん仲間が増えてうれしかったそうです。

「一月に一度だけでもいいので、安心・安全なのはもちろん、子どもたちが環境や農業のことを考える機会になるような給食を出してもらいたい」と下八尻さんは考えています。そう考えるようになった理由の一つには、活動を通じて、環境保全型農業を実践する地域の生産者の方々に出会ったことがあります。化学肥料や農薬を減らす環境保全型農業は、健康を促進し、持続可能で環境にやさしく、生物多様性の保全などにつながります。その良さを地域のの人たちに伝える機会をつくらうと、市役所での野菜の販売や、食や子育てに関する映画の上映会、講演会、野菜作りや米作り体験な

者には、「一緒に活動しませんか」と声をかけることから始めました。初めは仲間が集まるか不安もありましたが、賛同してくる人が思った以上に集まりました。こうしてつくったグループが、KS organic kids+です。活動を続ける中でも、どんどん仲間が増えてうれしかったそうです。

学校給食のオーガニック化を訴えるため、薩摩川内市の議員や県知事とも面会しました。賛同した議員が市議会を取り上げたこともありましたが、まだ進展はありません。

野菜や米を作るための畑や田んぼは、保育園とつながりがありました。過疎地域にあることから、生産者からは「若い人が来てくれることがうれし

い」と言われるそうです。特に棚田は、高齢化した生産者にとって管理が難しく、耕作放棄地も目立っていました。下八尻さんたちは、草刈りや竹の伐採から始めました。

野菜や米の育て方は、生産者のみなさんから教えてもらいました。「暑い中での草取りはとても大変ですが、田んぼに入ったり土に触れたりするのはとても気持ちがよく、楽しい」と下八尻さんは話します。

KS organic kids+のモットーは、「無理なく楽しく戦わず」。メンバーは仕事や子育てに忙しい人がほとんど。楽しむことを第一に、野菜の販売も米作りも、できる人ができる時に考えています。

食べもの心配がない未来を子どもたちに残したい

最近では、米が不足し

格が大幅に上がったたりして不安に感じることがありました。下八尻さんは、子どもたちには食べものの心配をさせたくない、食べものへの不安がない未来を残したいと考えています。「そのためには、生産者が安心して農業ができるように消費者が支えることが必要。その意識を広げていきたい」と話します。

活動を始めた頃に比べると、オーガニック給食や環境保全型農業の良さは、広く認知されるようになってきたと感じています。今後は、給食のオーガニック化の実現に向けて具体的に進めたいと考えています。

子どもたちが毎日食べる給食が、オーガニック給食になることで、生産者の暮らしが豊かになり、環境が守られ、地域経済が循環する。そんな思いを描く未来へ向かって仲間と楽しむ下八尻さんの実践の日々は、これからも続いていきます。



野菜作りを体験し、生産者と共に収穫を喜び合っ、笑顔がこぼれる。

投稿募集中! 掲載分には**グリーン券500円分**プレゼント!
(グリーンコープ商品の購入に利用可)

お題 ①BabyGreen(離乳食)を利用した感想、エピソードなど
(商品名を一つ明記してください) ②私の好きなグリーンコープ商品 ③うちの家族

応募方法 220字以内(①で写真有の場合は150文字)①の写真はjpeg、1.5MB以内、プリントも可。
住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記ください。
※個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。原稿や写真はお返しできません。「共生の時代」はグリーンコープのホームページでも公開します。ご了承ください。

郵送 〒812-8561 福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
博多大博通ビルディング4F グリーンコープ「共生の時代」編集部
FAX 092-481-7876 メール rikoho@greencoop.or.jp

お知らせ

「共生の時代」別紙で報告していた 残留放射能検査結果は本紙で報告します

グリーンコープは、取り扱う食品を中心とした商品について、残留する放射性物質の検査を実施し、公表することで、組合員が利用するかを判断できるようにしています。

これまで、残留放射能検査結果について「共生の時代」別紙で放射能測定結果一覧を公表してまいりました。今号より、別紙の発行は終了し、「共生の時代」本紙で、検査した期間と品目数、その検出結果を報告します。

なお、ホームページでは、2011年以降の放射能測定結果一覧を、週に1度更新して公表しています。最新の検査結果は、ホームページでお確かめください。

グリーンコープの残留放射能検査について

なぜ放射能測定室をつくったのか

世界中に放射能汚染が広がった1986年のチェルノブイリ原発事故の2年後に、日本国内で干ししいたけから高レベルの放射能が検出されました。グリーンコープは食品の放射能汚染の実態を知り、自主的に判断できるように、1989年から他団体と共同で、供給する食品の放射能測定を始め、「共生の時代」で結果を報告してきました。

2011年3月11日、東日本大震災にともなう東京電力福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中に放出されたことを受けて、2011年10月、グリーンコープは組合員へ企画する商品の情報を正しく伝えるために、食品

今号より、検査した品目の検出の有無と、検出した際の数値を以下のように報告します。

残留放射能検査結果①

2025年12月27日から2026年1月31日（一部12月26日以前の測定分を含む）に258品目の検査をしました。以下の商品からグリーンコープのアクション基準(10ベクレル/kg)以下の残留放射能が検出されました。食用に供する状態である水戻しでは検出されませんでした。

※厚生労働省の「食品中の放射性物質に係る基準値の設定」に準ずる

商品名	検出結果 (ベクレル/kg)	
大分県産 徳得 原木乾しいたけ (乾物)	セシウム-137	7.16
大分県産原木乾しいたけ 小粒どんこ (乾物)		
大分県産中玉どんこ (含め煮用) (乾物)		
大分県産原木乾しいたけ 規格外小粒どんこ (乾物)		

最新の放射能検査結果は、ホームページ「放射能検査の取り組み」をご覧ください。
<https://www.greencoop.or.jp/radiation/>



これまで別紙に掲載していた放射能測定結果一覧はホームページ「放射能検査の取り組み」をご覧ください。
<https://www.greencoop.or.jp/radiation/>
放射能検査についてご不明な点がございましたら、所属生協までお問い合わせください。

を中心とした商品の放射能測定をする放射能測定室を独自に設置しました。核実験や原子力発電所の事故などで、環境に放出される放射性物質の中にも割合が高いのが、ヨウ素とセシウムです。グリーンコープは、取り扱う商品のヨウ素-137とセシウム-137の放射能を「放射性セシウム10ベクレル/kg」としました。「10ベクレル/kg」を超える数値が検出された場合は、供給の是非を理事会で検討することにしています。

商品のヨウ素-137とセシウム-137について測定し、検査結果の全てを公開しています。グリーンコープの自主基準は「10ベクレル/kg」です。チェルノブイリ原発事故直後、食品中に残留する放射能の日本での暫定基準値は、チェルノブイリと陸続きであるヨーロッパと同じ「放射性セシウム370ベクレル/kg」でした。グリーンコープは、「買い、食べる側にとつての目安になる自主基準値が必要である」として、自主基準値を「放射性セシウム10ベクレル/kg」としました。

グリーンコープは、アクションレベル「10ベクレル/kg」を守り通すことは困難とも考えられましたが、生命を守るために最善の努力をしたいと考え、「10ベクレル/kg」を継続することにしました。

一方、国の基準値は、東京電力福島第一原発事故後の2012年からは、一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kg、飲料水10ベクレル/kgとなりました。

今後とも組合員が安心して商品を選ぶことができようように、グリーンコープの放射能測定方針に基づいて検査し、公表していきます。

グリーンコープは、アクションレベル「10ベクレル/kg」を守り通すことは困難とも考えられましたが、生命を守るために最善の努力をしたいと考え、「10ベクレル/kg」を継続することにしました。

現場では、ロボット工学による様々な研究と実践が行われているが、まさにそこは実験場で、初めてのことばかりだ。科学が発達して廃炉が進めばいいのだが、今のところ、ロードマップの行き先は霧の中である。

コリン・コバヤシさんコラム vol.28 フランスから見る世界の“今”

チェルノブイリ40年、フクシマ15年の教訓は？



コリン・コバヤシさん

フランス在住。美術家・著述家・ジャーナリスト。ジャーナリズムの仕事の傍ら、反核・反原発運動などに関与し、取材を行っている。代表作に『ゲランドの塩物語』(岩波新書2001年)、『国際原子力ロビーの犯罪-チェルノブイリから福島へ』(以文社2013年)など。

今年3月11日で東京電力福島第一原子力発電所事故から15年、4月26日でチェルノブイリ40年の節目にあたるので、何を教訓とするのか、考えたい。

1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故を覚えている世代、忘れた世代、全く知らない世代もいるだろう。民生用の原子力開発＝原子力発電所が爆発して炉心が溶融した、歴史的にも世界で最悪の事故だった。事故の原因は地震でも津波でもない。深夜に行おうとした実験の手続きを間違えた、人間の過ちから生じたものだ。爆発後、溶融した4号機の原子炉で火災が発生し、黒鉛にも引火して14日間燃え続けたために、放射能がヨーロッパのみならず、世界中に飛散した。

原子炉には、放射能を封じ込めるためのさらなるドーム(シェルター)の建設が2009年から始まり、2016年11月29日に設置された。このシェルタープロジェクトは世界中から基金を集めて、やっと30年後に実行できたのだ。放射能を封じ込め、安定したら、シェルター内部にある石棺を解体するというが、それが完成するには数百年の歳月を必要とする。

そして現在でも、この事故は完全に収束したとはとても言えない。理由はいくつかある。残念ながら、世界のメディアは現地のことをほとんど報道しないから、もう終わって過去のものだと思っている人が大半だ。確かにセシウム137の半減期30年はとうに過ぎ、放射能の影響はなくなっていると思っているかも

しれないが、事故前の放射線量に戻るには900年必要と言われている。実際、ベラルーシで子どもたちの体内に取り込まれた放射性核種を排出させるために体内の放射線量を測定し、その度合いに応じてベクチン療法を行っているベルラド放射線防護研究所の最近の測定でも、キノコ類は依然として高い数値を示している。例えば、1月の報告では、ベラルーシの首都ミンスクで採集した乾燥キノコの放射線量は9055ベクレル/kg、南部のゴメルでは、4950ベクレル/kg。日本では100ベクレル/kgが基準値だ。その意味で人が食する限界をはるかに超えている。住民は汚染された食品を食べるので、多くの子どもたちが病気がちだ。事故前は80%の子どもたちが健康だったのに、今では逆転した状況が続いている。40年過ぎて、この現実がまったく世界に知られていないのだ。

福島原発事故から今年で15年。チェルノブイリの半分以上の時間しか経っていかなくとも、すでに多くの人が気にもかけず、無関心に日々暮らしているように見える。

溶融した3基の原子炉からは、毎日、放射能が放出され続けている。原発事故前に、東京電力が安全性を豪語していた5重の放射能防護壁は、事故が起こった途端に機能しなくなった。溶融した炉心を冷やし続けるために、水による冷却を続けているが、これが続けられる限り半永久的に汚染水が発生する。だが、海洋をこのまま放射能で汚染し続けているの

だろうか。現場では、ロボット工学による様々な研究と実践が行われているが、まさにそこは実験場で、初めてのことばかりだ。科学が発達して廃炉が進めばいいのだが、今のところ、ロードマップの行き先は霧の中である。

チェルノブイリ以来、福島も含めて40年の間に明らかになったことは、国連の原子力機関IAEAを頂点とする国際原子力ロビーが放射能による健康への影響を過小評価し、チェルノブイリ、福島においても、「放射能による健康影響はなく、これからもない」と同じセリフを繰り返していることである。また、長期的に汚染されている地域でも、長時間にわたる低線量被曝の影響については、今の科学ではわからないとして、公式に認定するのを避けている。年間発症数が百万人に1～2人と言われる子どもの甲状腺がんを、福島では、多くの子どもたちが発症しているにもかかわらず、福島原発事故とは関係ないと主張して憚らない。こうして放射能の影響の否認は組織的に行われている。しかし、多くの方々が様々ながんや、白血病、白内障などの病気を患い、心臓、肝臓、腎臓や生殖器などに免疫力低下による多様な疾患を訴えている現実があることを否定できない。さて、私たち市民は何を教訓とすべきだろうか。このまま原発の再稼働が進むと、第二のフクシマがあり得るのだから。



カタログ
GREEN

8号(4月27日週配布)で
注文できます

塩豆大福
196g(4個入)



グリーンコープの 冷凍和菓子 — 塩豆大福 —

絶妙
バランスが
あんの甘みの
塩味の
豆の塩味と
もちの食感
やわらかい
もちの食感

グリーンコープには、メーカーの冷凍技術を生かした様々な種類の冷凍和菓子がそろっています。冷凍庫にストックしておけば、解凍するだけで、まるでできたてのような風味が味わえます。
今回は、塩豆大福にスポットを当てて佐賀市にある製造メーカーの(株)丸きんまに話を聞きました。

もちもち&なめらかな生地

国産もち粉と海水塩(なぎさ)を使用しています。国産もち粉ならではの、もちもちとした食感となめらかなさが特長です。

豆は、ほどよい塩味の赤えんどう豆

北海道産赤えんどう豆と海水塩(なぎさ)を使用して塩豆を作っています。

塩豆は、やわらかい生地に合う、ほどよい食感にこだわりました。こしあんの甘さとのバランスの良い塩味に仕上げられています。

北海道産小豆の甘さ控えめこしあん

小豆をすりつぶしただけの生あんに、砂糖のみを加えて丹念に練り上げています。

生地の中の塩豆の食感や塩味を際立たせるため、舌触りがなめらかで、甘さ控えめのこしあんにしました。合成甘味料は使用していませんので、後味がすっきりとしています。

冷凍庫から出して
常温で約2時間おけば
できたてのような
やわらかさに

グリーンコープの冷凍和菓子

不要な食品添加物は使用していません

食品添加物をできる限り使わずに素材の良さを生かすことを追求しています。
※一般的に販売されている商品の中には、生地のやわらかさを持続させる乳化剤や、合成甘味料を使ったものもあります。

国産原料を使用しています

原料の小麦やもち粉、小豆などは国産です。その他の原料も可能な限り国産のものを使っています。

冷凍のままお届けします

冷凍保存する商品なので、食品添加物を使用しなくても長期間保存できます。
ご家庭の冷凍庫に常備して、食べたい時に食べたい分だけ解凍して召し上がれます。

カタログGREEN5~8号で注文できる

丸きんまんじゅうの冷凍和菓子

よもぎ餅(粒あん)
5号・7号



自社製の粒あんを、よもぎの風味豊かなやわらかい生地で包んでいます

みたらし団子(冷凍)
5号・7号



昆布からだしを取ったこだわりの自社製のたれを使用

冷凍米粉
破れまんじゅう
(小豆粒あん)
8号



もちもちの生地の中に、自社製の粒あんがたっぷり

コーヒー大福(冷凍)
6号



コーヒーあん、コーヒークリーム、コーヒー生地と、コーヒーづくし



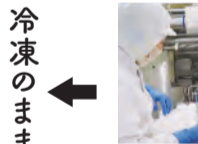
①生地
の材料を混ぜて蒸す



②生地に
塩豆を混ぜ合わせる

蒸練機にもち粉と塩、砂糖、水などを入れて練り混ぜながら蒸し上げる。その後生地を冷ます。

生地に塩豆を加えて均等になるように混ぜる。乳化剤不使用なので機械では均等に混ざらないため、経験者による手作業で行う。



③包装・
冷凍保管



④冷凍

手作業でトレーに詰め、包装その後、ダンボールに詰めてマイナスイオン35℃の大型冷凍庫で保管。

扱いやすくするためにマイナスイオン35℃の急速凍結を行い、でき立てのおいしさを閉じ込める。

冷凍のままお届け

塩豆大福ができるまで

製造メーカーに話を聞きました
安心・安全な材料にこだわって作っています
株式会社丸きんまんじゅう
営業部 吉村 慶子さん
品質管理部 宮原 沙織さん
塩豆大福の開発では、生地とあん、えんどう豆の味のバランスに一番こだわりました。特にえんどう豆で作られた塩豆は、やわらかい生地との相性がよく、ほどよい食感になるように特注して作ったものを使っています。不要な食品添加物を使わずに国産の良質な原料を可能な限り使用して作った塩豆大福は、素材の味が生きていて本当においしく、私たちもよく食べています。これからも自信を持って「おいしい」と言える商品をも、みなさんにお届けしていきたいです。

2026年1月のみんなのアクション

地球の未来を守るのは
あなたの1アクションから!



2027
カーボンニュートラル

2027年までにCO₂排出0へ
国産のものを食べる、容器などを返す。こんな簡単な1アクションが、地球を守る大きなアクションになります。

地球温暖化ストップのためにグリーンコープが拠出します

1pocoにつき5円、リユースびんの利用1本につき5円、モールドバック利用1バックにつき5円、リサイクルされるトレーなど1kgにつき5円

poco 国産のものを食べる

2026年1月の実績

5,588,464.4 poco

1pocoは100gのCO₂削減に相当

CO₂削減量 559トン

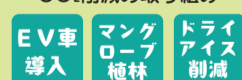
27,942,322円

2026年1月の実績

びんの利用数

牛乳びん	リユースびん	モールドバック
340,562本	141,988本	297,236パック
CO ₂ 削減量 24トン	3,898,930円	

CO₂削減の取り組み



リサイクル回収量

トレー	仕分け袋	カタログ
6,857kg	5,864kg	223,110kg
CO ₂ 削減量 66トン	1,179,155円	

削減できたCO₂

約649トン

CO₂を649トン吸収するためには、杉の本約46,366本が必要です

リユース・リサイクルデータ 2026年1月分(回収率)

牛乳びん 回収率 99.0%	リユースびん 回収率 97.5%
トレー 回収率 64.9%	モールドバック 回収率 176.0%
仕分け袋 回収率 25.2%	カタログ 回収率 52.1%

私のPOCOを確認しよう!

グリーンコープアプリをダウンロードして、ホーム画面の元氣くんをタップ!

アプリのダウンロードはストアからグリーンコープで検索

